

大豆近況 VOL.145

団体会員
一般会員 各位
賛助会員
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和2年12月7日
一般財団法人 全国豆腐連合会
代表理事 齊藤 靖弘
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省より11月10日に発表された2020/2021年度の世界の大豆生産高予測は、米国・アルゼンチン・インド・ウクライナが減少したことにより、前月比1.6%減の3億6,264万トンとなりました。また、需要量は減少したものの生産高の減少が上回り、期末在庫も前月比2.5%減の8,652万トンに下方修正されました。

米国産につきましては、単収の減少により2020年産生産量は前回より2.3%減の1億1,348万トンとなりました。生産高の減少に加え需要量もやや増えたことで、期末在庫は大幅に下方修正され前月比34.5%減の517万トン(在庫率4.2%)となっております。

また、同省により11月16日に発表された11月15日現在の米国主要生産州の大豆収穫率は96%(前年89%、平年93%)、一方でカナダ産におきましても順調に推移しており、いずれも収穫は終了段階に入っております。

前述のとおり2020年産北米産大豆は収穫期も終わりを迎え、まだわずかではありますが、サンプルが届き始めております。現在確認できている範囲では、2019年産に比べ粒形はやや大きく、蛋白質の含有量は同等からやや低めの印象をもちます。確認できているのは今のところごくわずかなため、全体的な品質の把握を急ぎたいと思います。

2020年産は概ね年明け以降に入船が本格的になってきますが、船会社の穀物輸送から撤退する動きが見られることや、中国他アジア諸国から北米への輸送需要の高まりで空コンテナを北米から運ぶ必要が出てきていることから、収益確保や需給バランスのために各船会社が海上フレートを上げる動きが出てきています。船運賃の上昇はコストアップに直結するため、早く落ち着くことが望まれます。

11月のシカゴ相場は期近限月で10.50ドル付近から始まりました。南米の乾燥天候による減産懸念とブラジルの米国産大豆買付観測により5日には11.00ドルに乗せ約4年ぶりの高値をつけました。続いて10日の米国農務省の需給報告により米国産大豆の期末在庫が約7年ぶ

りの低水準に引き下げられ市場予想を大きく下回ったことから一気に 11.50 ドルに迫り、その後も南米産の減産懸念及び米国産の低水準在庫と輸出拡大見通しからの需給ひっ迫の予測が買いを支え続け、23 日には一時 12.00 ドル台に乗せる動きを見せながら現地 11 月 27 日現在では 11.90 ドル付近で推移しています。

また、為替相場は 1 ドル=104.70 円付近から始まり、5 日には米国大統領選挙結果が近く判明する見込みとなったことから政治不透明感が後退、リスク回避解消のドル売が進み 103.50 円まで上昇しました。その後 9 日には米国製薬ファイザーからの新型コロナのワクチンの臨床試験で高い有効性が出たとの発表で景気回復の勢いが増すと観測により米株式が急伸、長期金利の上昇から日米金利差の拡大を見込む円売も進み、105.50 円近くまで円安が進みました。その後もワクチンへの期待は高まりつつも、米国での新規感染者の拡大が進み、経済指標の悪化も受けて 103~104 円台を上下、11 月 30 日現在では 1 ドル=104.00 円付近で推移しています。

○国産大豆

このほど JA 全農によりまとめられた令和 2 年産国産大豆の集荷・販売計回(10 月末時点)によりますと、集荷見込数量は 162,000 トンとなり、7 月にまとめられた生産計画(5 月末時点)と比べ、天候不順の影響から約 23,000 トンの下方修正となっております。地区別の大まかな状況につきましては後述の通りです。

北海道産は 9~10 月の収穫期における断続的な降雨により、一部地域で収穫遅れや被害粒の発生による製品歩留の低下が懸念されていますが、集荷数量としてはほぼ平年作の見込です。東北の一部では 7 月の豪雨による冠水被害、関東では 7 月の長雨の影響で播種遅れによる生育不良、北陸の一部では収穫期の降雨による小粒化傾向・品質低下が懸念されています。東海・近畿・中四国では 7 月の長雨の影響で播種遅れによる生育不良が見られます。九州では播種遅れでの生育不良が見られ、また台風 9 号・10 号の影響によりサヤ数の減少が見受けられます。

なお、令和 2 年産の入札取引は第 1 回目が 12 月 9 日(水)に行われ、北海道・東北・北陸産の産地銘柄について約 1,300 トン(大半が北海道産と思われます)が上場される見込みとされています。前年同様 12 月入札の上場数量としては低い水準ですので、高値スタートにならないよう冷静な対応が望まれます。

以上

令和2年産大豆の生産状況

令和2年11月18日

○大豆の作付面積

【農林水産省政策統括官穀物課】

	令和元年産 (ha)	令和2年産 (ha)	対差 (ha)	対差 (%)
北海道	39,100	38,900	▲ 200	99
東北	35,100	34,900	▲ 200	99
関東	10,100	9,800	▲ 300	97
北陸	12,400	11,900	▲ 500	96
東海	11,600	11,600	0	100
近畿	9,410	9,140	▲ 270	97
中国四国	4,810	4,740	▲ 70	99
九州	21,400	20,800	▲ 600	97
全国	143,500	141,700	▲ 1,800	99

資料：農林水産省「作物統計」

- ・ 最大産地である北海道では、小豆やいんげんへの転換等により、200haの減少がみられた。
- ・ 都府県では、青森県や新潟県等で減少し、これらの結果、全国では1%減少の141,700haとなった。

○集荷見込み数量(10月末時点)と生育・収穫作業ステージ

【全国農業協同組合連合会・全国主食集荷協同組合連合会】

- ・ 2年産大豆の集荷見込み数量(10月末時点)は、約16万7千トン(前年実績対比101%、本年生産計画対比87%)となった。
- ・ 北海道においては、集荷数量はおおむね生産計画を確保すると見込まれる。
- ・ 東北・関東においては、7月の長雨・豪雨の影響による播種遅れ等による生育不良がみられ、生産計画を下回ると見込まれる。
- ・ 北陸・東海・近畿・中国においては、7月の長雨による湿害や播種遅れによる生育不良がみられ、生産計画を下回ると見込まれる。
- ・ 九州地区においては、7月の長雨による播種遅れや台風9号・10号等の影響により、前年実績を上回るものの生産計画を下回ると見込まれる。

単位：トン

地域	元年産 集荷実績	2年産集荷見込み数量		直近の収穫状況	特記事項
		5月末 時点 (生産計画)	10月末 時点 (集荷計画)		
北海道	62,977	64,297	63,750	概ね収穫終了	一部地域に収穫時期の降雨の影響による品質の劣化がみられるが、収量は平年並みが見込まれる。
東北	41,561	42,300	39,297	収穫中	梅雨に長雨・低温・日照不足による生育不良が見られたことから、8月の好天により回復傾向となったものの、やや減収が見込まれる。
関東	7,762	11,220	8,464	収穫中	梅雨の長雨による播種遅れや低温・日照不足による生育遅れにより、昨年は上回るものの減収が見込まれる。
北陸	15,034	16,380	13,610	収穫中	梅雨の長雨による湿害や培土作業の遅れ、青じもちの発生等により、減収が見込まれる。
東海	10,437	11,830	9,820	一部で収穫開始 (ヒメグサは11月中旬～12月下旬)	梅雨の長雨による大規模な播種遅れや高温乾燥の影響により、生育不良による減収が見込まれる。
近畿	6,436	7,852	5,748	収穫中	梅雨の長雨による大規模な播種遅れや高温乾燥の影響により、生育不良による減収が見込まれる。
中国四国	2,576	2,660	2,470	収穫中	梅雨の長雨による播種遅れや高温乾燥の影響により、生育不良となったことから、やや減収が見込まれる。
九州	18,445	34,765	23,701	一部で収穫開始 (ヒメグサは11月中旬～12月中旬)	梅雨の長雨による大規模な播種遅れや9月の台風9号、10号等の影響により、生育不良が見られ、凶作だった昨年は上回るものの減収が見込まれる。
合計	165,230	191,274	166,880		

令和2年産大豆の集荷・販売計画（総括表）

単位：ha、t

都道府県	全国農業協同組合連合会				全国主食集荷協同組合連合会				合計			
	作付面積	集荷予定数量			作付面積	集荷予定数量			作付面積	集荷予定数量		
		前回(7月)	今回(11月)	前回の差		前回(7月)	今回(11月)	前回の差		前回(7月)	今回(11月)	前回の差
北海道	33,057	59,980	60,270	▲ 290	1,642	4,317	3,480	▲ 837	34,699	64,297	63,750	▲ 547
青森	4,042	5,500	5,400	▲ 100	11	19	22	3	4,053	5,519	5,422	▲ 97
岩手	3,053	4,610	4,210	▲ 400					3,053	4,610	4,210	▲ 400
宮城	9,896	16,050	14,360	▲ 1,690					9,896	16,050	14,360	▲ 1,690
秋田	7,256	9,450	8,950	▲ 500	205	341	345	4	7,461	9,791	9,295	▲ 496
山形	3,647	5,150	4,830	▲ 320					3,647	5,150	4,830	▲ 320
福島	759	1,180	1,180	0					759	1,180	1,180	0
茨城	2,243	3,560	2,290	▲ 1,270	354	633	334	▲ 299	2,597	4,193	2,624	▲ 1,569
栃木	1,875	3,100	2,690	▲ 410	151	387	250	▲ 137	2,026	3,487	2,940	▲ 547
群馬	87	120	110	▲ 10					87	120	110	▲ 10
埼玉	304	370	280	▲ 90					304	370	280	▲ 90
千葉	486	550	460	▲ 90					486	550	460	▲ 90
新潟	3,693	6,470	5,740	▲ 730					3,693	6,470	5,740	▲ 730
富山	4,001	6,790	5,040	▲ 1,750					4,001	6,790	5,040	▲ 1,750
石川	1,303	2,160	2,110	▲ 50					1,303	2,160	2,110	▲ 50
福井	690	960	720	▲ 240					690	960	720	▲ 240
長野	1,340	2,350	1,930	▲ 420					1,340	2,350	1,930	▲ 420
岐阜	2,498	2,860	2,840	▲ 20					2,498	2,860	2,840	▲ 20
静岡	135	150	120	▲ 30					135	150	120	▲ 30
愛知	4,100	5,540	4,010	▲ 1,530					4,100	5,540	4,010	▲ 1,530
三重	4,032	3,430	2,970	▲ 460					4,032	3,430	2,970	▲ 460
滋賀	5,175	7,310	5,320	▲ 1,990	43	82	58	▲ 24	5,218	7,392	5,378	▲ 2,014
兵庫	420	440	360	▲ 80					420	440	360	▲ 80
奈良	26	20	10	▲ 10					26	20	10	▲ 10
鳥取	461	370	420	50					461	370	420	50
島根	420	630	570	▲ 60					420	630	570	▲ 60
岡山	77	120	110	▲ 10					77	120	110	▲ 10
広島	168	150	130	▲ 20					168	150	130	▲ 20
山口	768	870	710	▲ 160					768	870	710	▲ 160
香川	30	20	20	0					30	20	20	0
愛媛	306	470	480	10					306	470	480	10
高知	45	30	30	0					45	30	30	0
福岡	7,615	14,090	9,420	▲ 4,670	65	139	110	▲ 29	7,680	14,229	9,530	▲ 4,699
佐賀	7,276	14,120	9,460	▲ 4,660	77	190	133	▲ 57	7,353	14,310	9,593	▲ 4,717
長崎	387	480	160	▲ 320					387	480	160	▲ 320
熊本	2,144	3,850	3,140	▲ 710	5	11	8	▲ 3	2,149	3,861	3,148	▲ 713
大分	1,190	1,260	830	▲ 430	147	175	140	▲ 35	1,337	1,435	970	▲ 465
宮崎	175	150	130	▲ 20					175	150	130	▲ 20
鹿児島	313	300	170	▲ 130					313	300	170	▲ 130
計	115,494	184,980	162,000	▲ 22,980	2,700	6,294	4,880	▲ 1,414	118,194	191,274	166,880	▲ 24,394

(対前年実績-889ha(-1%)、+1,649t(+1%))